

# カメルーン（2025年度）

- [国・地域別情報トップページへ](#)
- [各国・地域情勢](#)
- [在カメルーン日本国大使館](#)

1. 2024年度日本語教育機関調査結果
2. 日本語教育の実施状況
3. 教育制度と外国語教育
4. 学習環境
5. 教師
6. 教師会
7. 日本語教師派遣情報
8. シラバス・ガイドライン
9. 評価・試験
10. 日本語教育略史

## 1.2024年度日本語教育機関調査結果

初等教育			中等教育			高等教育			学校教育以外			全体の合計		
機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数
0	0	0	0	0	0	1	2	15	1	5	35	2	7	50

（注）2024年度日本語教育機関調査は、2024年9月～12月に国際交流基金（JF）が実施した調査です。また、調査対象となった機関の中から、回答のあった機関の結果を取りまとめたものです。そのため、当ページの文中の数値とは異なる場合があります。

[「海外日本語教育機関調査」のページへ](#)

## 2.日本語教育の実施状況

### 全体的状況

日本語学習需要の大きさに比して日本語教育機関は多くない。首都ヤウンデ及び商業都市ドゥアラには民間語学学校が存在し、主に高校生や大学生が日本語を学んでいる。極北州の国立マルア大学に日本語クラブが存在し、日本文化を知る一環として日本語を学習している。また、同大学は日本語学科の設立を希望している。

### 沿革

2008年から2015年までヤウンデ第二大学政治戦略学術研究センター（CREPS、修士課程）で開講されていた。

2008年に日本語を独学で学んだカメルーン人青年によってアダマウア州ンガウンデレの高校に日本語クラブが設立され、一時は近隣の中学や高校併せて4校で日本語クラブが活動していたが、2026年1月時点でこれらのクラブ活動は休止中である。2020年には、元国費留学生のマルア大学教授が同大学に日本語クラブを設立し

た。

民間の日本語学校は、2008年にドゥアラに一校が開校した。2009年頃からヤウンデには一校あったが2021年に閉校、2022年に別の一校が開校した。

## 背景

日本に対する認知度は、小学校建設支援等をはじめとする日本からの伝統的な支援、日本製自動車や電気製品等の先進技術力への関心、また、日本の文化・歴史への関心、武道及びポップカルチャーの影響で比較的高い。

## 特徴

日常生活では日本語に接する機会がほとんどないことから、日本語学習者は授業以外で日本語を実際に練習することは難しい中でも、片言の日本語による挨拶等が出来るカメルーン人は増加傾向。マンガやアニメを通じて日本語の単語や歌を習得している若者がおり、簡単な会話の習得にスマホのアプリが活用されているが、本格的な日本語学習にはつながっていない。

## 最新動向

- ヤウンデでカメルーン人が経営する日本語学校には日本人の教員が3名おり、約90名が在籍し、2025年には45名の学生を日本に送り出している。同校は、カメルーンにおける日本語能力試験の実施を希望している。
- 国立マルア大学（極北州）学長から駐カメルーン日本国大使に対し、日本語学科の開設に向けた協力依頼があった。また、同校附属図書館は、2025年度 Read Japan Project に採用され、年度末頃に日本関連の書籍が寄贈される予定。
- 2024年度から東京外国語大学と国立ヤウンデ第一大学が学部生の交換留学を行っている。
- アニメや漫画などの媒体を通じて日本語学習に関心を持つ若者の層の広がりが見られるものの、教師や教材、資金不足のため日本語教育の拡大に繋がっていない。

## 教育段階別の状況

### 初等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

### 中等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

### 高等教育

- 授業として日本語教育は実施されていない。
- 国立マルア大学にて元国費留学生の教授が日本語クラブを主催し、東京外国語大学及び京都精華大学と協定を結び、オンラインでの交流を行っている。また、同大学は日本語学科の設立を希望している。

### 学校教育以外

ヤウンデ及びドゥアラに民間の日本語学校が存在し、主に高校生や大学生が学んでいる。

### 3.教育制度と外国語教育

#### 教育制度

##### 教育制度

英語圏とフランス語圏で教育制度が異なる。

フランス語圏は6-4-3制。小学校には通常6歳で入学し6年間で、初等教育修了証書（CEP）取得者が卒業・進級できる。中等教育（前期4年、後期3年）は4年修了時の前期中等教育修了証書（BEPC）取得者が高校（後期中等教育）に進学できる。大学入学資格はバカロレア。

英語圏は6-5-2制。小学校には通常6歳で入学し6年間、Class1（日本の小学1年生に相当）からClass6（日本の小学6年生に相当）までである。初等教育修了証書（FSLC）取得者が卒業・進学できる。中等教育（前期5年、後期2年）は、前期がForm1から始まりForm5までである。後期に進学するにはForm5修了時に修了証書（GCE Ordinary level）を取得する。その後高校はLower6、Upper6の2学年となる。大学入学資格はGCE Advanced Level。

##### 教育行政

小学校は初等教育省、中等教育（中学校・高校）は中等教育省、高等教育（大学・大学院）は高等教育省がそれぞれ管轄している。

#### 言語事情

現地語は約250存在すると言われているが、国の公用語はフランス語及び英語である。英語は北西州及び南西州を中心に使われているが、カメルーン全体としてはフランス語話者の方が多い。

国営テレビ（CRTV）のニュースは英語とフランス語を混ぜて放映し、政府系新聞（Cameroon Tribune）においてはフランス語と英語の記事が混在している。

#### 外国語教育

##### 外国語の中での日本語の人気

学習施設が少ないことから、他の外国語と比較すると学習者の数は非常に少ないが、アニメなどを通じて日本語に関心を持つ学生は多く、片言の日本語挨拶等を行うカメルーン人はいる。相対的な日本語学習人気がありながら、当地の中国語や韓国語の学習環境に比べても、日本語学習のための関連インフラ不足が否めない。

##### 大学入試での日本語の扱い

大学入試で日本語は扱われていない。

### 4.学習環境

## 教材

### 初等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

### 中等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

### 高等教育

2008年から2015年までヤウンデ第二大学政治戦略学術研究センター（CREPS、修士課程）で開講されていた日本語の授業では『技能実習生のための日本語「みどり」』（公益財団法人 国際研修協力機構）が使われていた。

<http://hiroba.jitco.or.jp/categories/index/1>

### 学校教育以外

詳細については把握していない。

## IT・視聴覚機材

詳細については把握していない。

## 5.教師

### 資格要件

#### 初等教育

日本語教師の資格要件は確認されていない。

#### 中等教育

日本語教師の資格要件は確認されていない。

#### 高等教育

日本語教師の資格要件は確認されていない。

### 学校教育以外

日本語教師の資格要件は確認されていない。

## 日本語教師養成機関（プログラム）

日本語教師養成を行っている機関（プログラム）はない。

## 日本語のネイティブ教師（日本人教師）の雇用状況とその役割

ヤウンデの民間語学学校において日本語のネイティブ教師（日本人教師）が雇用されており、日本語教師の有資格者もいる。

### 教師研修

特に確認されていない。

### 現職教師研修プログラム（一覧）

特に確認されていない。

## 6. 教師会

### 日本語教育関係のネットワークの状況

特に確認されていない。

### 最新動向

特になし。

## 7. 日本語教師派遣情報

### 国際交流基金からの派遣

### 国際協力機構（JICA）からの派遣

JF、JICA からの派遣は行われていない。

### その他からの派遣

（情報なし）

## 8. シラバス・ガイドライン

統一シラバス、ガイドライン、カリキュラムは確認されていない。

## 9. 評価・試験

共通の評価基準や試験は確認されていない。

## 10.日本語教育略史

2008年	ヤウンデ第二大学政治戦略学術研究センター（CREPS、修士課程）の学生向けに日本語の授業を開始  ドゥアラにて民間語学学校が開校 ンガウンデレの高校（Lycée Classique et Moderne de Ngaoundéré）で日本語を独学で学んだカメルーン人により日本語クラブが発足
2009年	首都ヤウンデにて元国費留学生による民間語学学校が開設
2014年	ンガウンデレの高校（Lycée de Ngaoundéré-Mardock）で2校目の日本語クラブが発足
2015年	教師不在によりヤウンデ第二大学政治戦略学術研究センター（CREPS、修士課程）の日本語の授業が閉講
2016年	ンガウンデレの中学校（Collège la victoire）で3校目の日本語クラブが発足
2019年	ンガウンデレの高校（Lycée de Sabongari）で4校目の日本語クラブが発足
2020年	極北州のマルア大学で日本語クラブが発足
2021年	首都ヤウンデにおいて元国費留学生による民間語学学校が閉校
2022年	首都ヤウンデにおいて民間語学学校が新たに開校

### 情報更新についてのお願い

この国の日本語教育に関する情報がありましたらお知らせくださるようお願いいたします。  
なお、内容の確認のため、こちらからご連絡する場合があります。

**Eメール：kunikatsu@jpf.go.jp**

（メールを送る際は、全角@マークを半角@マークに変更してください）